

# 鳴り砂「琴ヶ浜」・国立公園「三瓶山」でふるさと体験レポート

## 海と山を舞台に、大田の魅力を満喫！おおだ市流田舎ツーリズム

### 取り組みの動機

大田市は、世界遺産「石見銀山遺跡」をはじめ、国立公園「三瓶山」、46kmにもおよぶ海岸線など、歴史と豊かな自然に育まれ、魅力ある地域資源を数多く有する地域です。

今回のツアーを主催した石見織人(ORIJIN)「こむしこむさ」は、交流人口と定住者の増加を目的に活動しているグループです。市内12のツーリズム実践団体のネットワーク化と、「おおだ市流田舎ツーリズム」の仕組みを創るため、「大田市市民提案型協働モデル事業」の採択を受け、市とともに取り組んでいます。



鞆の銀蔵から見える日本海



琴ヶ浜で海遊び

### 田舎ツーリズムの開催

本年8月2日から3日にかけて、鳴り砂の浜「琴ヶ浜」と国立公園「三瓶山」を舞台に、千葉、大阪、鳥取などから5組12人に参加いただき、「おおだ市流田舎ツーリズムモニターツアー」を開催しました。

1日目の昼は、海水浴やスイカ割りで海を満喫。夜は、地元で採れた夏野菜と三瓶山のバーベキューを食べながら交流会、夜行生物探検や星空観察会を満喫。

2日目は、そば打ちや豆腐作り、キャベツの苗植えを体験。



地元食材を使ったバーベキュー



砂浜でのスイカ割り

このツアーをインターネットでも知り、大阪から参加された女性は、「一日で色んなことが体験でき、参加してすぐ良かった。食べ物がいっぱい、星空がきれいでした。島根は初めてですが、大田が好きになりました」と、笑顔で語ってくれました。

### ツーリズムを終えて

今回の企画で苦労したことは、「広報」と「集客」です。特に、集客については、参加募集の期間が約1ヶ月しかなかったこともあり、開催直前まで苦労しましたが、苦労を乗り越えることにより、様々な解決策もみえてきました。

モニターツアーでは、問題点を洗い出すことも事業目的の一つであることから、これらを踏まえ、今後の企画につなげていきたいと思えます。

私たちの最終目的は、ツアーを通して「定住」につなげていくことです。大田の良さや魅力を知っていただき、将来、この地で暮らすことを選択肢の一つに入れてもらえ



三瓶の森で夜行生物探検



子ご美の里でそば打ち体験

### 石見織人(ORIJIN)「こむしこむさ」

世界遺産「石見銀山遺跡」や国立公園「三瓶山」など、歴史と自然に恵まれた大田市を、より楽しんでいただくために活動する地域ネットワークグループです。

地域の魅力と、人々の知恵と経験を活かせる活動を目指しています。私たちが織りなす活動が、大田の未来をちょっとだけ楽しくするものになることを願っています。

るようお願いしています。私たちがもいるんな人との出会いを楽しみながら、「ぼちぼち」「ゆっくり」(フランス語で『コムシコムサ』)と歩んでいきたいと思えます。

(石見織人(ORIJIN))

「こむしこむさ」

会長 中島 浩司)

享保17(1732)年、西日本では春以来の長雨・冷夏やウンカなど害虫の大発生によって、稲作は大きな打撃を受けました。世に伝わる西日本一帯の「享保の大飢饉」の年です。地元に残る史料によれば、「6月より稲に虫湧き、大いなる凶作」「7月より大うんか虫付きて」など、銀山御料においては害虫被害が大きかったと思われま

す。前年の秋、齢60の井戸平左衛門は江戸城内より石見代官に任官しています。年を明けてからの惨状に心労は大きかったことなのでしょうが、さまざまな手だてを講じたと伝えられています。私財や裕福層からの浄財を資金として購入した米や、幕府の許可なく開いた代官所米蔵の米を飢えた人々に与えたこと、稲作被害の大きかった地域では年貢米を免除したこと、飢饉を農民が助け合って乗り越えることの必要性和手段を制札にまとめ村々に立てたこと。



井戸さん祭りの際に家々の軒先につるす「花飾り」を作成  
於 町並み交流センター（大森町）

そして特筆は、他国に先駆けて「サツマイモの栽培」を石見に広めたことでしょう。伝えによれば、諸国を巡っていた修行僧を通じて、薩摩国（鹿児島県）で栽培されていたサツマイモの情報を入手しました。肥沃でない石見国の土地柄も考えたことなのでしょうね、少ない肥料と比較的労力要らずで多収穫が見込め、かつ、保存が効くことに着目し種芋の入手を図りました。大飢饉の予兆があった享保17年4月のことです。

しかし、村々へ種芋を配ったのが植付け時期を過ぎた7月だったこともあり、この年の栽培はことごとく失敗したようです。いくつかの試行や幾年月かの時間を経て、村々にサツマイモ栽培が根付いたことを、「井戸平左衛門御代官所、扶食（ふじき：食糧）行き届き餓死人これなき由（徳川実記）」が物語ります。領民は「奇跡が起こった」と感じたことでしょう。

さて、道ばたやお寺の境内地に井戸代官をたたえる石碑をご記憶されている方も多いと思います。それもそのはず、確認されている領徳碑は市内で98箇所（県内：476箇所）、また、鳥取県や広島県でも建てられているようです。

井戸神社（大森町）では、5月と11月の例大祭が今でも営まれています。また、平成15年には地元女性グループが「いも娘（いもむす）」を結成し井戸代官の威徳を後世に伝えるさまざまな活動を続けています（写真）。

井戸平左衛門の歴史をお知らせする機会を通して、「井戸さん」や「いも代官」の愛称が語り継がれることを祈ります。

※参考：ふるさと学習誌 いも代官井戸平左衛門の事蹟（平成13年3月大田市外2町広域行政組合発行）

## すよんぼし語録⑤

野菜を持って、親戚をたずねた男性(A)と

親戚の女性(B)との会話

- A ねえさん、まめなかな。  
B こないだ、ねぎでまくれてな、ぶつけたところがはしって細工にならんじ。  
A 気をつけてごしないよ。  
B あんさんもまげに焼けて、どがしただかな。  
A 畑の世話しとったら、こがに焼けてな。  
B 糸瓜がようけできたけ、酢の物にでもして、食べてごしないや。  
A そら、ようこそようこそだ。わがところでもキュウリがええかちゅうほどできとるけ、もって帰らない。  
B そがだかな!? 今年はどうでも野菜がようけできてあばきがつかんじ。  
A ほんにそがだ。ま、漬物にでもすーだに。

(対訳)

- A おばさん、元気にしてますか。  
B このあいだ家の傍で転んで、ぶつけたところが痛くてたまらないよ。  
A 気をつけてくださいよ。  
B あなたもよく日焼けして、どつしたんですか。  
A 畑の手入れをしていたら、こんなに焼けましたよ。  
B 糸瓜（そうめんかぼちゃ）がたくさんできたので、酢の物にでもして、食べてください。  
A それはありがとう。うちでもキュウリがともたくさんできていますから、持って帰りなさいよ。  
B そうですか!? 今年はどうでも野菜がたくさんできて始末がつかないなあ。  
A 本当ですね。まあ、漬物にでもしたらどうですか。

(解説)

今年の夏はワリ科の野菜が大豊作でした。いつもは嬉しい“おすそわけ”も、今年ばかりは困りもの。留守の間に玄関にキュウリがどっさり置いてあることもありました。

今秋は柿も成り年での家も豊作になりそうです。あわせ柿・干し柿以外の食べ方をよく存知でしたらお知らせください……。